

## 令和3年度 一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 117

千葉県立袖ヶ浦高等学校 全日制の課程 普通科

### 1 期待する生徒像

学業成績が優秀で、人物に優れ、スポーツ活動・文化活動等入学後の学校生活に明確な目標を持ち、それを積極的に表現しようとする人物

### 2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査	学校が定めた次の検査の結果
自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 文章による自己表現 実施形態：学力検査同様、一斉に教室で実施 検査時間：50分 字数：800字以内 イ 実技による自己表現 実施形態：種目により個人または集団で発表 次の種目のうち1つを選択 野球(男)、サッカー(男)、陸上競技(男女)、ソフトテニス(男女)、テニス(女)、 バスケットボール(男女)、バレーボール(男女)、バドミントン(男女)、 卓球(男女)、剣道(男女)、柔道(男女)、新体操(男)、 吹奏楽(男女)、書道(男女) 検査時間：10～50分(種目により異なる)

### 3 評価項目及び評価基準

#### (1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

#### (2) 調査書〔135点満点〕

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=1$ を乗じた数値で評価する。 評定1又は未評価の教科がある場合、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	各学年において30日以上欠席がある場合、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が一つもない場合は審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、 部活動の記録及び特 記事項	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

### (3) 自己表現〔100点満点〕

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（標準に達していない）・d（問題がある）の4段階で評価する。

評価項目（ア）及び（ウ）はaを15点、bを9点、cを4点、dを1点とし、評価項目（イ）はaを20点、bを12点、cを6点、dを1点とし、2名の評価者の評価（各50点満点）を合計し、得点化する。評価dが1つでもある場合は、審議の対象とする。

#### ア 文章による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・態度	書かれた文章の分量が十分であり、表現の方法が適切である。
(イ) 基礎能力	基本的な文章表現能力を備え、内容の組み立て・展開に論理性があり、伝えようとする主題を指示に沿って明確に表現することができる。
(ウ) 専門能力	表現が豊かで、主題をより効果的に表現することができる。

#### イ 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・態度	検査中等の態度が適切で、積極的に取り組む姿勢・意欲が見られる。
(イ) 基礎能力	受検種目の基礎的技能を十分に備えている。種目に適した基礎能力を持ち、将来性がある。
(ウ) 専門能力	受検種目の専門的技能を備え、高度な実践・表現ができています。

## 4 選抜方法

### (1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査（自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の 得点	調査書の得点	学校設定検査の得点	総得点
	評定（K=1）	自己表現	
500点	135点	100点	735点

### (2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはない。

## 5 その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面接を行う。

## 令和3年度 一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 117

千葉県立袖ヶ浦高等学校 全日制の課程 情報コミュニケーション科

### 1 期待する生徒像

学業成績が優秀で、人物に優れ、スポーツ活動・文化活動等入学後の学校生活に明確な目標を持ち、それを積極的に表現しようとする人物

### 2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査	学校が定めた次の検査の結果
自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現 実施形態：個人で発表 日本語による自己アピール及び発表内容についての質疑 検査時間：自己アピール3分程度 質疑1分程度 イ 実技による自己表現 実施形態：種目により個人または集団で発表 次の種目のうち1つを選択 野球(男)、サッカー(男)、陸上競技(男女)、ソフトテニス(男女)、テニス(女)、 バスケットボール(男女)、バレーボール(男女)、バドミントン(男女)、 卓球(男女)、剣道(男女)、柔道(男女)、新体操(男)、 吹奏楽(男女)、書道(男女) 検査時間：10～50分(種目により異なる)

### 3 評価項目及び評価基準

#### (1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

#### (2) 調査書〔135点満点〕

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=1$ を乗じた数値で評価する。 評定1又は未評価の教科がある場合、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	各学年において30日以上欠席がある場合、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が一つもない場合は審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、 部活動の記録及び特 記事項	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

### (3) 自己表現〔100点満点〕

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（標準に達していない）・d（問題がある）の4段階で評価する。

評価項目（ア）及び（ウ）はaを15点、bを9点、cを4点、dを1点とし、評価項目（イ）はaを20点、bを12点、cを6点、dを1点とし、2名の評価者の評価（各50点満点）を合計し、得点化する。評価dが1つでもある場合は、審議の対象とする。

#### ア 口頭による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・態度	検査中の態度が適切で、発表の時間・表現の方法が適切である。
(イ) 基礎能力	基本的な口語表現能力を備え、伝えようとする主題を的確に分かりやすく表現することができる。
(ウ) 専門能力	表現が豊かで、主題をより効果的に表現することができる。

#### イ 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・態度	検査中等の態度が適切で、積極的に取り組む姿勢・意欲が見られる。
(イ) 基礎能力	受検種目の基礎的技能を十分に備えている。種目に適した基礎能力を持ち、将来性がある。
(ウ) 専門能力	受検種目の専門的技能を備え、高度な実践・表現ができています。

## 4 選抜方法

### (1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査（自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の 得点	調査書の得点	学校設定検査の得点	総得点
	評定（K=1）	自己表現	
500点	135点	100点	735点

### (2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

## 5 その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面接を行う。